

第5学年 道徳学習指導案

平成29年 9月29日(金) 第5校時

- 1 主題名 役割と責任の自覚 内容項目 [C 集団生活の充実]
- 2 ねらい 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚して、協力して責任を果たそうとする態度を養う。
教材名「森の絵」 (出典 学習研究社「みんなのどうとく 5年」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っ
てよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充
実に努めること。」と示されている。これは、先生や学校の人々を敬愛し感謝の気持ちをもっ
て、学級や学校の生活をよりよいものにしようとすることや、様々な集団の中での活動を通
じて、自分の役割を自覚して集団の充実に努めることに関する内容項目である。また、こ
れは、「第1学年及び2学年」での「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活
を楽しくすること。」、「第3学年及び4学年」での「先生や学校の人々を敬愛し、みん
なで協力し合っ
て楽しい学級や学校をつくること。」から発展してきており、中学校の「教師や学校の人
々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っ
てよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任
を自覚して集団生活の充実に努めること。」へとつながっていく。

人は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営
んでいる。それらにおける集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重して生かされな
がら、主体的な参加と協力の下に集団全体が成り立ち、その質的な向上が図られるもの
でなければならない。

そこで、教師や学校の様々な人々との活動を通して学級や学校全体に目を向けさせ、
集団への所属感を高めるとともに、それらの集団に積極的に参加し集団の意義に気付き、
自分の役割と責任を自覚して、充実した集団生活を構築しようと努力することが大切
である。さらに、第5学年及び第6学年においては児童が小学校の高学年としての自覚
をもち、学級や学校、身近な集団を愛する心を具体化できるようにすることが必要
である。身近な集団において自分の立場やその集団の向上に資する自分の役割、個人
の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなどを自覚して、様々な活
動に積極的に参加できるようにしていくことも必要であると考えられる。

指導にあたっては、様々な集団での活動を通して、集団を支えているのは自分たち自
身であるということに気付かせると同時に、集団における自分の役割を自覚し責任を
果たそうとする態度を育てるように指導したい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、5年生になって児童会や学校行事などでリーダーとして活動する機
会が多くなっている。また、運動会などの学校行事等で責任をもって活動するこ
とが多くなり、その中で自

分の役割を進んで見つけていかなければならないことを経験してきている。また、委員会や縦割り活動などにおいても、班の中での高学年としての役割や高学年としての責任感を少しずつではあるが自覚できるようになってきた。

しかしながら、自分の都合や仕事に対する好き嫌いなどによって、役割や仕事に対する意欲や責任感が薄れ、いい加減な作業や活動になってしまう児童が見受けられることもあった。学級の日直や給食当番でも、休み時間の遊びなど、自分の気持ちを優先してしまい、仕事をやり遂げることができない児童がみられたこともあった。こうした姿からは、自分の役割が全体の活動を支える上でどのようなものなのか、またそれぞれの役割がしっかりと果たされることで全体が成り立つということを十分に理解しているとは言えない。

また、道徳の授業では、本時のねらい「集団生活の充実」に関連して、4年生の「かべに付けた手のあと」で愛校心を学習してきている。学級の一員としての生活から学校の一員としての生活をより多く体験するようになった児童が積極的に学校生活を営もうとする姿勢を養ってきている。

以上のことをふまえ、この授業を通して、自分だけの欲求で行動するのではなく、集団における役割や責任を自覚し、どんな役割でもその役割が集団を支えていることに気付くようにしたい。そして、与えられた役割に対して、主体的に責任を果たしてこそ、そこに所属する楽しさや喜びを実感できることに気付くようにしたい。これらのことを踏まえ、集団にどのように働きかけていったらよいか考える道徳的判断力、責任を果たそうとする道徳的実践意欲を児童の心に育てていきたいと考えた。

本主題に関わる実態調査の結果は以下の通りである。

【実態調査結果 省略】

実態調査の結果から、児童は、自分の役割を責任もって最後までやり遂げた経験をもっていることがわかった。その理由として、「みんなが困ってしまうから」、「自分の仕事だから」、「怒られてしまうから」、「成功させたいから」などで、児童の考え方は様々であることがわかった。

反対に、自分の役割を責任もって最後までやり遂げなかった経験も全ての児童が持っている。その理由として、「早く遊びたかったから」、「めんどろだったから」、「誰かがやってくれると思ったから」などという怠惰な感情や自己中心的な考えによるものがほとんどであった。また、「他の人もしていなかったから」という安易な考えで周りに流されている児童も見られた。

役割を自覚し責任もって最後までやりとげることの意義については、「責任をもたなければならないから」「自分のためになるから」という自分自身にかかわる理由が多く、次いで、「周りの人に迷惑がかかるから」という人との関わりに関わることを理由に挙げていた。さらには、「自分の役割を自覚すると、生活がしやすくなる」という個と集団のかかわりをとらえている児童が1名いた。現時点では、個と集団のかかわりをとらえることが不十分であると考えられる。

責任もって最後までやりとげることの心構えについては、「自分の仕事はやりとげなければいけないという気持ち」や「役割を自覚し責任持ってやり遂げるとは、普通のことだと思うこと」など、多様な考えが挙げられていた。本時ではそれらの考えを友達と交流し、深め、一人一人がねらいを踏まえた自分の解が得られるようにしていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、児童に身近な学習発表会を扱った内容で、責任をもって役割を果たそうとする文男の姿からえり子が反省し、自分もクラスの一員として頑張ろうとする様子を描いている。えり子の気持ちの変化に着目して、集団の中で、自分の役割をいかに果たしていくかについて考える話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

① 絵筆を持つ手に力が入らない場面。

ここでは、女王役になりたかったえり子の気持ちを浮き彫りにしながら、やる気の出ない気持ちをとらえさせ、女王になれなかったえり子の気持ちに十分に共感させる。

② 文男が「もう少しやっていく。」と言った場面。

ここでは、文男の姿を見て、えり子の心にわき上がった気持ちをとらえることにより、新たな考えに気付いくえり子の心の内を考えさせる。

③ 授業中、文男の言った言葉を思い出した場面。

ここでは、えり子の道具係に対する仕事の姿勢と、クラスの劇のために刺繍を一生懸命にしている文男の姿を比較して、えり子の葛藤する心の内を考えさせる。また、劇を成功させようと、文男だけでなく、めぐみや修も懸命に自分の仕事をしていることを取り上げ、次の発問につなげる。

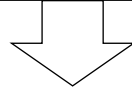
④ ポスターカラーをのびのびと皿にときはじめて場面。

ここでは、文男や他の友達の言葉や行動の意味について考えさせ、一人一人が自分の役割を果たすことが集団の成功につながることに気付かせる。また、えり子もみんなと同じように自分も道具係として頑張ろうとする意欲をもったことをとらえさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

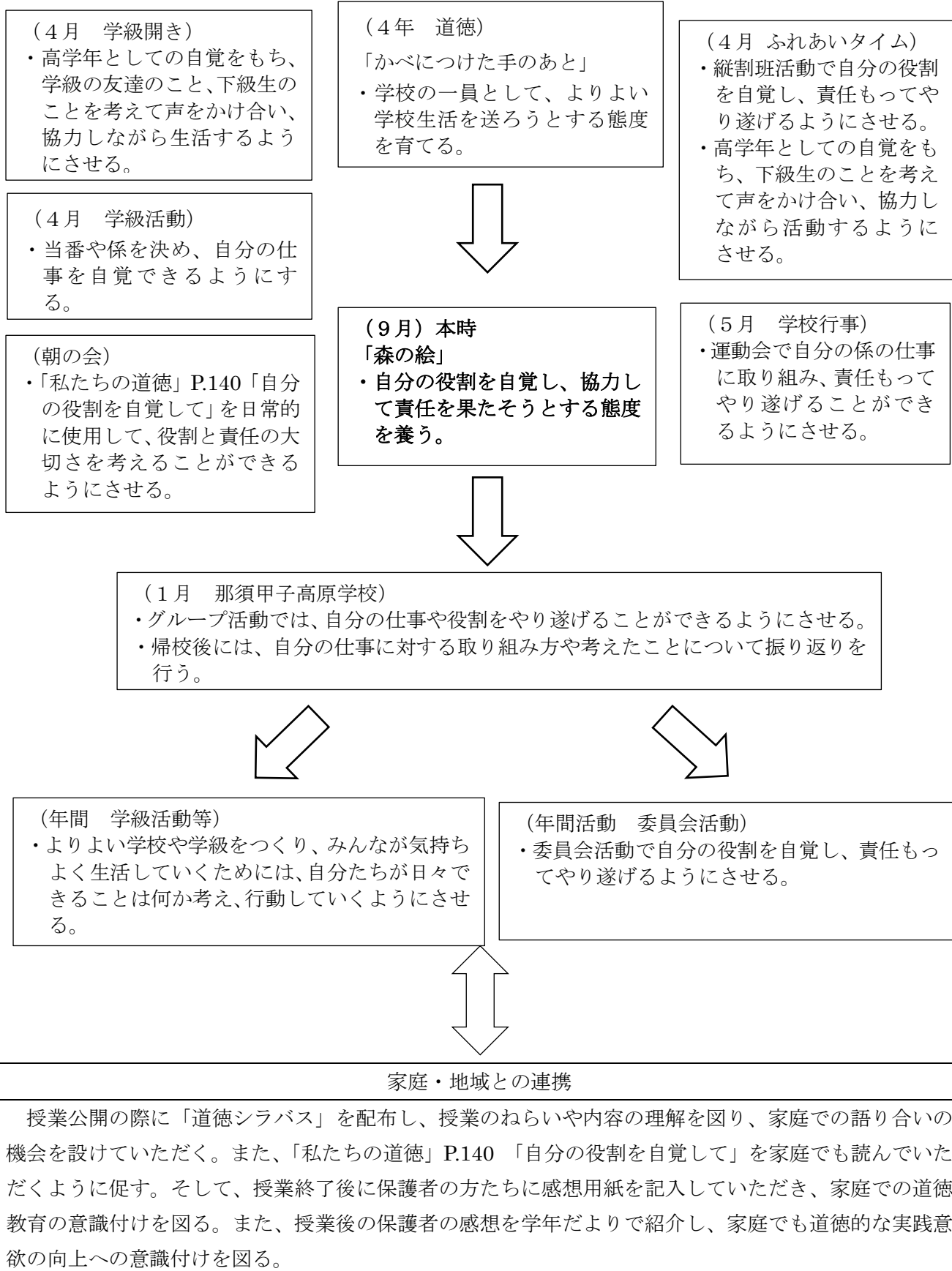
4 研究主題との関連

研究主題
自分を見つめ、よりよく生きようとする子どもの育成
—考え、話し合い、主体的に学ぶ授業を目指して—



目指す児童像	
○正しく判断する子	○約束やきまりを守る子
○思いやりの心もち仲よく助け合う子	○生命を大切にし元気に過ごせる子
仮説と手立て	
<p>【仮説1】 道徳の時間において自分の心を見つめて表現したり、友達と共に話し合ったりする活動を充実させることにより、自分の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるであろう。</p>	
<p>(仮説1に対する手立て)</p> <p>①導入の工夫 役割を自覚し、責任を果たすことについて考えさせるために、アンケート結果を掲示する。印象や感想などで述べ合い、役割や責任について自分とのかかわりで考えさせるための導入となるようにする。</p> <p>②表現活動の工夫 展開の後半の段階に書く活動を取り入れ、本時の話し合いを振り返り、一人一人が学習課題に対して答えを導き出せるようにする。そしてねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。</p>	
<p>【仮説2】 道徳の時間を家庭や地域社会に発信すれば、学校の取組と家庭・地域社会の意識の一本化が図られ、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が高まっていくであろう。</p>	
<p>(仮説2に対する手立て)</p> <p>①授業シラバスの作成 保護者に授業を公開する際、授業内容をより明確にし、授業のねらいや児童に身に付けさせたい資質や能力、態度を理解してもらうために、道徳シラバスを作成する。</p> <p>②授業シラバスの活用 授業シラバスに保護者の感想を記入してもらい、保護者の思いや願い家庭での語り合いを日常生活の中で生かすことができるようにする。</p>	

5 他の教育活動との関連



6 展開

段階	学習活動 ○主な発問・補助発問 ◎中心発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点	資料 時間
導入	<p>1 アンケート結果を見て、気が付いたことを話し合い、役割や責任を果たすことについて本時の課題を知る。</p> <p>○これはアンケートの結果です。何か気が付いたことや思ったことはありますか。</p> <p>○自分の役割や責任を果たしていくことは大切だということみんな知っていますね。そのためにはどんな気持ちや考えが必要なのでしょう。みんなで考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな仕事をやり遂げているね。 ・やり遂げる理由は、人によっていろいろ違うんだ。 ・でも、やり遂げていないことも多いよ。 ・自分の都合で責任を果たさないことが多いね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を見ることで、ねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。 ・話し合いの目的を明確にするために学習課題を提示する。 	3分 アンケート結果
<p>学習課題 自分の役割や責任を果たしていくためにはどんな気持ちや考えが必要なのでしょう。</p>				
展開	<p>2 教材「森の絵」について知る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物、条件、状況について知る。 ・短冊を用いて押さえていく。 	3分 場面絵 短冊
<p>【登場人物】 主人公・・・えり子 めぐみ 文男 修</p> <p>【条件・状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級で「森は生きている」の劇をやることになった。 ・女王役を望んだがめぐみに譲った。 ・女王役になれなかったえり子は仕事がなげやりになってしまう。 ・文男は得意でないししゅうをする係になった。 (・えり子は得意な道具係になった。) 				

展	<p>3 教材「森の絵」の読み聞かせを聞く。</p> <p>○「えり子」の気持ちを考えながら聞きましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「えり子」の気持ちを考えさせ、状況が捉えにくいところは説明しながら聞かせる。 	5分 場面絵 短冊
	<p>4 「えり子」の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○絵筆を持つ手に力が入らないえり子は、どんな気持ちなのでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんだかやる気がしない。 ・やっぱり女王がやりたかったな。 ・わたしだって、上手にできるのに。 ・めぐみさんに、譲らなければよかった。 ・八月の精じゃつまらない。 ・適当でいいや。 ・仕方がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女王役をやりたい気持ちがあったが、めぐみに役を譲ったえり子の気持ちに寄り添わせる。 ・女王役になれず、道具係の仕事にやる気の出ない姿を捉えさせ、納得できていない気持ちに共感させる。 ・揺れ動きながら、文男によって正しい自分に気付いていくえり子の気持ちを丁寧に扱っていく。 	5分 場面絵 短冊
	<p>○「もう少しやっていく。」という文男の言葉を聞いた時、えり子はどんなことを考えたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得意じゃないのに、どうしてこんなに頑張っているのだろう。 ・私は文男さんみたいにできない。 ・文男も言わずに頑張っていてすごいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文男の頑張る姿を見て、言葉にできないえり子の心にわき上がった気持ちを考えさせる。 ・文男の言葉を聞き、葛藤するえり子の心の内を考えさせる。 ・文男にとって、刺繍は得意でないことを押さえる。 	5分 場面絵 短冊
	<p>○授業中、「でも、だれかがやらないと劇にならないじゃないか。」という文男の言葉を思い出して、えり子はどんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんなに一生懸命やるのだろう。 ・やりたい仕事じゃないのにえらいな。 ・文男さんはみんなのことを考えているんだ。 ・私は自分のことばかり考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・えり子の道具係に対する仕事の姿勢と、クラスのため刺繍を一生懸命にしている文男の姿を比較して、えり子の葛藤する心の内を考えさせる。 ・自分の振り返りと文男 	7分 場面絵 短冊

	<p>○えり子がポスターカラーをのびのびと皿にとく姿が変わったのはどんな考えになったからでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私はみんなのように、クラスのために仕事をしようなんて思っていなかった。 ・私も頑張らないと。 ・自分が恥ずかしい。 ・みんなのためにやらなくちゃ。 ・劇はみんなで作るものだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・女王役ではなくても、文男のようにクラスの劇作りのために頑張ろう。 ・自分のやるべきことをしっかりやろう。 ・どの仕事も大切な仕事なんだな。 ・誰かが怠けたら劇は成功しない。 ・仕事にみんなと取り組むと、こんなにさわやかな気持ちになれるんだな。 ・みんなの力で劇を作りあげよう。 ・一生懸命がんばろう。 ・最高の劇にしたいな。 	<p>に対する思い、仕事や役割についての考えを分類して板書し、比較できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇を成功させようと、文男だけでなく、めぐみや修も懸命に自分の仕事をしていることを取り上げ、次の発問につなげるようにする。 <p>☆えり子の仕事に対する姿勢と、文男の姿勢を比較して、えり子の葛藤する心の内を考えることができたか。 (発表・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの発表会を成功させようという意欲に変わり、迷いを乗り越えたえり子のすがすがしい気持ちを感じ取らせる。 ・「劇を成功させる」、「みんなで成功させる」という言葉から、えり子の気持ちを捉えるようにさせる。 	<p>6分 場面絵 短冊</p>
	<p>5 学習課題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>○自分の役割や責任を果たしていくためにはどんな気持ちや考えが必要なのでしょう。自分なりの答えを書いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな仕事でも大切な仕事なんだな。 ・いろいろな役割があって、集団はできているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して、一人一人が学習課題に対して自分なりの答えを導き出せるようにする。 	<p>8分 ワーク シート</p>

	<p>6 自分の生活を振り返り、責任を自覚し、役割を果たす視点で自分自身を考える。</p> <p>○今日の授業を通して考えた「役割・責任」について考えたことをもとに、今までの自分を見つめてみましょう。</p> <p>○これから、どんなことに取り組んでいきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたくないと思ってもどの仕事も大切だ。 ・一人一人の仕事の大切さに気づけていなかったけど、これからは頑張ってみよう。 ・クラスや学校の中の自分の役割をこれからも進んでやっつけていこう。 ・委員会の仕事や係の仕事を責任もってやりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通してできた新たな価値観をもとに、自分を見つめたり、課題を持ったりすることができるようにする。 ☆役割の自覚や責任を果たすことの意義を理解することができたか。 <p>(ワークシートへの記入・態度・表情)</p>	ワークシート
終末	<p>7 自分たちが役割を自覚し、責任を果たしたときの写真を見る。</p> <p>◎この写真を見てください。毎日みなさん一人一人が自分の役割を責任もってやり遂げていますね。みなさんの様子を見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の当番の様子の写真 ・委員会活動の様子の写真 ・学校行事での活動の様子の写真 ・地域での活動の様子の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんながそれぞれの仕事をきちんとやっているんだな。 ・ぼくたちがしている仕事が、下忍小学校を支えているんだな。 ・自分の役割を考えて、きちんとやり遂げていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値を印象づける。 ・どんなことでも一人一人が役割を果たすことで成り立っていることをとらえさせる。 ・今まで児童が高学年として役割を果たしてきた様子の写真を見て、「私たちの道徳」の言葉に結びつけて、余韻を残して終わるようにする。 	3分

8 評価の観点

〈児童の学習状況の評価〉

- ・学習課題をもとに、これまでの自己を見つめ、役割を自覚し、責任を果たすことの大切さを理解することができたか。
- ・先生の話や友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的、多角的に考えることができたか。
- ・考えを相手に伝えたり、書いたりすることで、自己の生き方について考えを深めることができたか。

〈児童の道徳性に係る成長の様子の評価〉

- ・役割を自覚し、責任を果たすことの意義を理解し、よりよい集団や社会をつくるためにはどうしたらよいかという判断力が高まったか。
- ・役割を自覚し、責任を果たすことで、進んでよりよい集団や社会をつくろうとする意欲が高まったか。

9 板書計画

